

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370500916		
法人名	有限会社 丸八介護サービス		
事業所名	丸八グループホーム日吉		
所在地	名古屋市市中村区日ノ宮町1丁目61-1		
自己評価作成日	平成26年8月27日	評価結果市町村受理日	平成27年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2370500916-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	平成26年9月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共用型デイサービスの導入で、早い段階から入居申請者と「なじみの関係作り」が可能となり、住まう場所が変わっても大きな混乱を生じさせる事なく新しい生活環境になじまれている。また、看取りケアの提供により住み慣れた場所や人達の中における、継続した生活支援の構築に努めている。さらに、地域密着型施設であることから、施設内外で地域の方との交流を深め、そのことから利用者の更なる意欲を引き出し、やがては利用者が少しでも地域のお役に立てるような支援をしていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長年にわたり家政婦の派遣事業を行っていた法人が運営していることもあり、地域の方とは馴染みの関係が築かれている。そのような良好な関係を継続しながら、地域の方に認知症の方のことを知ってほしいという思いもあり、地域包括支援センターとも連携しながら、定期的に認知症サポーター養成講座を開催しており、毎回、多くの方の参加が実現している。さらにホームでは、併設しているデイサービスとは別に、グループホームの機能を活かした共用型のデイサービスを行っている。利用者がデイサービスを利用しながらホームの雰囲気にも慣れてもらい、改めてホームへ入居することが可能であり、利用者の環境面での変化をおさえることができる。また、ホームでは、重度の方が増えつつある中、法人で24時間の対応が可能な看護師を確保しており、医療面のサポートにも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として「地域の人々と喜びの輪をひろげよう」を掲げており、この実践に向けた運営と活動を日々の業務の中で心がけている。	「喜びの輪をひろげよう」という言葉を理念とし、3項目にわたる具体的な内容をつくっている。基本理念については、職員の名刺に記載したり、デイサービスの送迎車にも記載しており、日常的に意識するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一階デイサービスを地域の方に貸し出しており、子供たちが夏祭りの太鼓練習をしたり、町内会議を開催している。秋祭りには施設としてポン菓子を提供して子供たちに喜ばれている。	ホームは町内会に入り、ホーム前の公園で行われる行事に参加したり、ホーム日常的にも交流に取り組んでいる。また、地域の方に向けて、認知症サポーター養成講座を定期的に開催しており、地域貢献にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域・グループホーム利用者家族向けに認知症サポーター養成講座を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、町内会長・民生委員・家族代表・地域包括支援センターの方々に出席して頂いている。町の運動会や盆踊りなどにもお誘い頂き、参加している。	会議には、複数の地域の方の参加が得られ、法人からもケアマネージャーが出席していることもあり、地域の方の困り事等が解決につながるよう取り組んでいる。また、地域包括支援センター職員との情報交換も行われている。	現状、家族の出席がほぼ決まった方になっていることもあり、運営推進会議で話し合われた内容を家族にも報告しながら、家族にホームへの理解を深めてもらうような取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護や独居の方の受け入れ、虐待に関する情報交換などを積極的に行っている。昨年は開所10周年記念イベントの際に、介護相談コーナーの場所を提供した。	生活保護を受けている方を受け入れていることもあり、市担当者との情報交換等が行われている。また、事業所の設備等を地域包括ケアに関する取り組みや、地域包括支援センターとも連携した講習会等が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出入り口を開けると直ぐに急な階段があるため、戸を閉めると自動的に施錠する作りになっているが、日ごろから職員同士で拘束にあたる行為についての話をするなどして拘束に関する意識向上に努めている。	ホームは、身体拘束を行わない方針を掲げているが、ホーム入り口については、目の前に急な階段があるために施錠を行っている。利用者の安全を踏まえながら、ストレスにならないような生活を考えている。	利用者の状況にも合わせて、入り口の施錠について、見直しの意見も出されている。利用者の安全にも配慮しながら、自由な暮らしについて継続した検討に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日ごろから虐待について職員同士が話をし、意識を高めあっている。また、夜勤帯は一人夜勤であるため、ストレスを感じた時には、利用者として少し距離を置くなどの指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度を活用されている利用者があり、毎月来訪される権利擁護スタッフとの情報交換を心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解して頂けるよう説明を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、意見箱の設置、毎月のお便りを通じ、御家族との情報交換に努めている。	年2回の家族が集まる機会をつくり、今後は食事会を兼ねた開催を考えている。ホーム建物の玄関に意見箱を設置し、施設全体の施設長も勤務しており、意見等の把握に努めている。また、共通の内容の便りの他に、毎月、個別の内容の便りの作成も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1度、グループホーム会議を開催して意見交換を行なっている。また月に1度、各セクションの代表者による運営推進会議を設けている。	職員会議を月1回行っており、現場からの意見や要望等は、責任者が集まる会議にもあげられ、検討等が行われている。また、ホーム管理者による面談の他に、施設全体を統括する施設長による面談の機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力給等の個々の評価を行い、やりがいの持てる給与水準に近づけるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月勉強会を実施できるよう努めている。また、研修参加の機会を確保し、個々の能力を高めるよう力を入れている。また、資格習得のための休み等は、最優先で便宜を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践者研修へ積極的に参加して貰い、同業者との横のつながりを築いて頂いたり、他事業所のサービス(ポン菓子)を利用したり、親睦会にお誘いし、親睦を深めた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居宅の介護支援専門員からの情報やご家族からの聞き取り等を通じ、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族支援や家族関係の修復に留意しながらの関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他事業所の紹介等を始め、希望や要望に沿うサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に生きる」事を意識し、日常的に出来る事はして頂きながらの生活作りを目指している。時には、調理を教わったり、一緒に食器を洗ったりしている。また、職員が利用者に世話を焼かれていることがある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	住まう場所が変わっても、より良い家族関係が継続出来るような関係づくりに努めている。盆や正月の他、御家族と一緒に付き添って食事や買い物にお出掛けになることがある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族写真等を居室に飾って頂いたり、思い出アルバムを一緒に見たりするなどし、本人にとって心地良い時間や空間作りに努めている。また、ホーム1階デイサービスに来ている知り合いに会いに行くこともある。	ホームの利用者とデイサービスの利用者との知人だった方がおり、交流している方がいる。利用者の以前からの生活習慣の継続やホームの試演で馴染みの美容院に出かけている方もいる。また、家族との外出の機会も得られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	音楽療法・散歩・作業等を共同で行いながら、利用者同士のおしゃべりを引き出す等、孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	殆どが死亡退去であるため、契約終了後に家族から相談を受ける事はないが、葬儀等には参加させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを通じ、本人の思いを探る努力を行っている。職員全員でセンター方式のアセスメントシートを活用出来るように努力している。	職員は、毎月の便りの作成を通じて、一人ひとりの情報や思い等を把握しながら、それらを日常の申し送りや毎月のカンファレンスにつなげている。また、利用者の情報の記録方法を業務日誌に一本化させることで、職員間の情報の共有をしやすくしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネや家族からの聞き取りを初め、センター方式のアセスメントツールを使用し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤帯と夜勤帯の申し送りを業務日誌、チェックメモに記入し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の介護記録や支援経過記録などを参考にモニタリングを行い、職員と話し合いながら計画担当者が作成している。	介護計画については、基本3か月毎に見直しており、日常的には、介護評価記録の様式にて、毎日の支援内容のチェックを行っている。また、モニタリングを2か月毎に行いながら、利用者の状態等の確認を行っている。	職員の日常的な気付きについては、介護計画の内容にも合わせながら細かく記録に残すことで、毎日職員が実施しているチェックが、より具体的なような取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入所されて初めて夜間の様子が把握できた利用者の睡眠改善や、病気予防の工夫を職員で協力して行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	曾孫誕生祝いの昼食会に出席させたいとのご家族の要望を、介護タクシーを利用することで叶えることができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	画一的なサービスにならないよう、個々の状況やニーズに応じ臨機応変なサービス提供と処遇改善に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には当施設のかかりつけ医に通院して頂いている。この際は医療情報提供票にて、従来の治療が継続して行えるように支援している。また、馴染みの医院などを希望されている場合は、本人、家族の意向を優先させて頂いている。	ホームには、協力医による訪問が月2回行われており、一人ひとりに合わせた支援も行われている。また、医療面について、法人全体の把握を行っている看護師がいることで、24時間の連絡が可能となっている。また、歯科往診も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間看護師と連絡、相談できる体制をとっており、適切な受診ができるようアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	通院時カンファレンスやサマリー等の提供をお願いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の意思確認やアンケートとあわせ、状況に応じて看取りケアの指針を提示し、その方向性をその都度御家族と検討している。	重度化に対応した指針と同意書をつくり、家族との段階に応じた話し合いを行い、看取りを見据えた支援に取り組み、実際に看取りに至った事例もある。また、ホーム会議の中にもテーマとして取り上げ、職員へのケアやサポートにも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時連絡網を作成しており、職員は1階に設置しているAED講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員・町内会の共同による消防訓練を年2回行っている。町内の方々には実際に利用者の誘導をお願いし、改善点等の意見を出して貰い、緊急時の協力をお願いしている。	年2回の避難訓練の際には、夜間想定や通報装置の使用についても実施されており、消防署の職員の立ち会いも行われている。また、地域の方の参加、協力が得られている他、ホーム内に水や食料等の備蓄も行われている。	ホームは、以前からの関わりもあり、地域の方とは良好な関係を築いている。ホームとして協力できることも検討しながら、相互の協力関係が継続されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応に注意を払っているが、十分ではないため、日ごろから職員同士で指摘し合い、注意喚起している。また、記録の書き方も利用者、家族に配慮した記述ができるように指導している。	職員の利用者への言葉遣いについては、管理者がより注意を促すように取り組んでおり、介護記録の方法についても、利用者への配慮を行うように指導に努めている。また、入浴や排泄時の対応については、プライバシーへの配慮にも取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いをひもとき、利用者の思いに添える援助を目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、入浴時間の検討を始め、画一的援助にならないよう、個別ケアの理解を深める努力を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容や衣類選択の支援を行っている。季節の行事などでお化粧することがある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の盛り付け、片付けは職員と利用者が一緒に行なうよう努めている。また、最近では週に1回の頻度で昼食にお寿司を提供する「お寿司の日」を始めている。	食事は、ワンクックで調理ができる食材を調達して調理しているが、おかず類の1品については、職員で考え調理を行うように指導を行っている。また、利用者の楽しみを増やすために、週1回、「お寿司の日」をつくっており、握り寿司や出前を注文したりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて、ラコール等の経口栄養や、ミキサー食、プリン、ゼリー、果物で食事量を補っている。他にお茶、コーヒー、ジュースなどの飲み物は十種類以上用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、うがい、口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導や、尿パットの確認をして、毎日ズボンまで濡らしていた利用者の失禁が、月に1回程度に減少した。	全員の排泄状態の確認及び記録を行っており、チェック表と日常の申し送りを通じて、排泄に関する情報の共有につなげている。トイレでの排泄をすすめながら、失禁の回数が減る等、排泄状態が改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便があるようにと、食べ物の工夫や、水分摂取量に注意し、腹部マッサージなどを実施している。また毎朝、体操を日課としている。それでも排便がない利用者には看護師と相談して下剤にて排便をコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は二日に一度だが、毎日入浴される利用者もある。ゆず湯や菖蒲湯を季節に応じて実施した。	1日おきの入浴の方が多いが、利用者の意向にも合わせて、毎日入浴している方もいる。重度の方については、必要に応じて職員が複数で対応することもある。また、柚子湯や菖蒲湯等の季節に合わせた楽しみも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前に、よく眠れるように飲み物など提供している。また、夏期冬期には夜間の水分補給、湿度調整、空調の温度設定にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をカルテに綴じ、情報を共有している。また、看護師から注意事項の説明を受けている。他に、誤薬事故予防として薬トレイに利用者の顔写真を張り付け、わかりやすくしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな利用者が多いので、毎朝、体操の後に歌の時間を設けている。また、ピアノの伴奏を利用者と一緒に弾くことがある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スーパーマーケットなどへ日用品を買いに職員と出かけたり、近所の美容院へ行く支援をしている。他に外食やお花見、遠足を実施している。	ホームの前に広い公園があるため、利用者が日常的に公園に出るようにしたり、近隣への散歩やスーパーへの買い物にも出かけている。また、外出行事として、遠くの公園に出かけたり、外食を楽しんだり、花見に出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、現金所持を希望される方がない為、所持されている方はいない。支払いの際も職員が代わりに支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自筆での年賀状を家族あてに送るなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花を毎月購入して飾ったり、ボランティアの方が撮影した写真を飾って下さっている。また、職員が季節毎の室内装飾を頑張ってくれている。	ホームのリビングは十分な広さを確保しているため、デイサービスの利用者が過ごしてもゆったりと過ごすことができる。壁には季節に合わせた飾り付けが行われている。なお、リビング内は、靴を履いて過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置を工夫し、気の合う利用者同士と一緒に座れるようにしている。また、ベランダに長椅子を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族と相談し、馴染みの家具や小物を持参して頂いている。	自宅から持ち込まれた様々な家具や身の回りの物が置かれてある居室と、持ち込み品が少なくすっきりした印象の居室もあり、その方らしさが出ている。また、現状は重度の方が多いこともあり、ベッドで過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がより分かるようにと表示を大きくかつ、見やすい高さに設置。また、浴室前も同様の表示に変更した。他には必要のない手すりを撤去した。		